

概要

2024 年 8 月 27 日火曜日の 6、7 校時に第 2 学年を対象とした「学術研究講演会」が開催されました。東北大学大学院生命研究科の酒井聡樹(さかいさとき)准教授に「これから研究発表をする仙台一高生のために」という演題で講演を行っていただきました。

内容

聴衆に自分の研究を聴いてもらうための発表のまとめ方や、研究の進め方、わかりやすいスライドやポスターを作成する注意点や構図などについて知ることができました。実際にあった研究やスライドを例にして、どのようにまとめればよりわかりやすい発表を行うことができるのかを教えてくださいました。



講義メモ

研究発表における留意点を具体的に知ることができました。多くの学んだことの中から一部を抜粋します。

1. 聴衆に伝えるために発表する

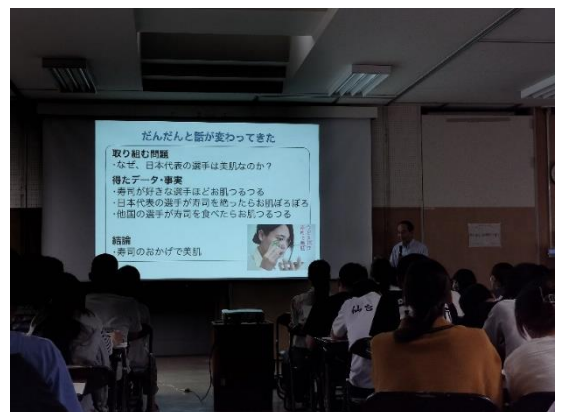
→聴衆には理解の努力を払う義務がないため、発表する側が発表技術を学んだり工夫をする必要がある。

2. 結論の明確化

→設定した問題に対する答えではなく、得たデータ、事実から言えることを考える。このとき、当初設定した問題と結論がずれている場合は、結論に合わせて問題を変えるのも一つの手(結論を変えるのは不可)。

3. スライド、ポスターに共通する発表技術

→①見出しをつけ、言いたいことの要点を示す。②全体像を示してから細部を説明する。③文章ではなく絵的な説明をする。④聴衆に言葉を覚えさせないため、中身を要約した言葉を使う。⑤見出し、要点などの大切な部分を目立たせる。⑥表よりも図を使う。⑦大きな文字、ゴシック体で背景とのコントラストを明確にする。⑧聴衆を見て話す。



4. わかりやすいスライドの作り方

→①序論の最後で、取り組む問題とその解決のために行うことを示す。②発表の最後にまとめを示す。③発表全体の目次を示す。④1枚のスライドで1つのことを示す。⑤大切なことはスライド上部に書く。

5. わかりやすいポスターの作り方

→①全体的にすっきりしていて拾い読みしやすいポスターにする。②序論で、取り組む問題、解決のために行なうこと、取り組む理由、を明記する。③まとめはポスター右上に書く。④ポスターは2段組みを基本にする。⑤情報の領域を明確にする。⑥番号等を使って情報間の対応をつける。

今後研究発表を予定している生徒は、自分の研究が上に記載した事項に沿ったものになっているかよく検討してほしいと思います。



Q&A

Q. 発表の際にジェスチャーをするのはよいか。

A. 適度な程度なら構わないが、過度にやりすぎると聴衆が違和感を覚えるので注意が必要。

Q. ポスターに載せられる情報量が少なく、研究内容のすべてを載せられない時はどうすべきか。

A. 最も大事な研究のみをピックアップして載せるべき。入りきらない研究については序論にて説明する程度。



編集後記

今回の講演会で研究発表の仕方を学んだことで、皆自分の研究発表への見通しが定まったようです。また、質疑応答も盛んに行われていました。今回学んだ知識はどれも非常に有用なものであり、学術研究のみならず、私たちが社会に出た際にも役に立つようなものばかりでした。2年生はポスター発表が迫っているので、今回学んだことを十分に活かしてほしいと思います。

最後に、私たちにこのような素晴らしい学びの機会をくださった酒井聡樹准教授に深く感謝を申し上げます。

